

普及活動情勢報告（平成26年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

施設栽培における低コスト・省エネ化及び環境制御技術講演会を開催しました



「低コスト・省エネ及び環境制御技術講演会」を10月31日に開催し、JA土佐くろしお管内の生産者30名、関係機関等49名が参加しました。JA管内の施設栽培は、環境制御技術による増収効果の検討を行っており、技術向上と生産者の意識向上を目的に開催しました。県外から講師を招き、布団資材やウォーターカーテン等を用いた省エネ技術、細霧冷房機や二酸化炭素施用によるトマト栽培について情報交換を行い、参加者からは、二酸化炭素の局所施用による効果や調査方法について等、活発に質問が出た講演会となりました。

今後も、実証結果の検討を行い、関係機関と協力して環境制御技術の確立を目指します。

津野山産ユズの出荷が始まりました



品質を確認するJA職員と生産者

JA津野山管内では、平成20年から加工用ユズの産地化に取り組んでおり、成木になるに従い出荷量も徐々に増加しています。

10月27日に目慣らし会を開催し、出荷規格や集荷方法、収穫時の安全対策、出荷時の異物混入防止など、十分に注意していくことを指導しました。出荷期間は10月31日から約1ヶ月間を予定しており、出荷規格や品質確認をその都度行い、取引先との良好な関係づくり、元気のある産地づくりに取り組んでいきます。

JA土佐くろしおハウスシトウ部会で現地検討会を開催



JA土佐くろしおハウスシトウ部会の現地検討会が11月7日に開催され、21名の生産者が参加しました。

現地実証圃の経過報告や今後の栽培管理等について説明を行いました。ハウス内の環境制御（CO₂施用等）について興味を示した生産者も多く、実証試験はまだ途中段階ですが、今後も継続して調査を行い、データ等を十分に分析して、現地検討会等で情報提供を行なっていきます。

JA土佐くろしおキュウリ部会で現地検討会を開催



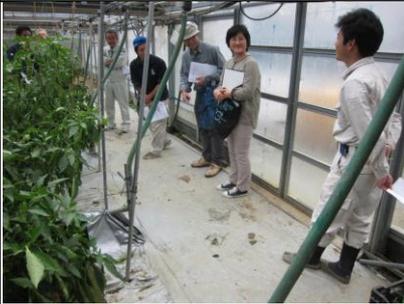
平成27園芸年度のキュウリ現地検討会が始まり、11月11日・12日の2地区で開催され計34名の参加がありました。年度始めのため、開閉のタイミングによるハウス内の温度管理や、枝の誘引について指導をしました。参加者も、自分の整枝方法と比較して熱心に確認していました。力枝に移行後、安定した樹勢維持ができよう現地指導を定期的に行います。

J A土佐くろしおキュウリ部会の出荷始め総会



キュウリ部会の出荷始め総会が11月14日に開催され、93名の生産者が参加しました。平成27園芸年度の現地実証試験として、「炭酸ガス施用の収量に及ぼす影響」や「天敵利用による害虫発生の推移について」調査することを報告しました。生産者にとって興味のある課題であり、実証圃の経過や結果について情報提供を行い、技術確立に向けて取り組みます。

J A津野山の就農研修施設「営農みらい塾」が定期報告会を開催



J A津野山は独立就農前の研修施設として、「営農みらい塾（ハウス）」を設置して研修生を受け入れており、J A、町と連携して育成を支援しています。今回、研修実績や栽培試験の結果等についての報告会を11月12日に開催しました。栽培期間中、アブラムシ類やうどんこ病が多発した時期があり、研修生は対応に苦慮しましたが、反省点や課題を整理し、来作の研修に向けて、適期防除の実施など目標設定を行うなど、就農に向けての意欲を確認しました。

今後、就農地の確保や施設整備等について、具体的な手続きを関係機関で支援します。

J A土佐くろしおのサヤインゲン部会出荷始め総会



J A土佐くろしおサヤインゲン部会の出荷始め総会が11月17日に開催され、24名の生産者が参加しました。

今年度を実施する現地実証試験の内容確認や、GAP推進の一環である「安心安全点検シート」の回収・集計結果を報告しました。GAPの集計結果は、実施できている項目と出来ていない項目をグラフに示したため、参加者も分かりやすい様子で、今後の意識啓発につながりました。収量品質の向上と安心安全への取り組みについて、J Aと連携して支援を続けます。

集落営農組織で加工に取り組むには ～中土佐町が集落営農先進地を視察～



集落営農を進めるため、中土佐町内の農業者12名と関係機関4名が参加して、11月12日～13日に集落営農先進地視察研修を実施し、広島県「(農)なひろだに」、「(農)聖の郷かわしり」を視察しました。視察先の2法人では、水稻の協業栽培以外にも野菜栽培や豆腐や総菜といった食品加工にも取り組んでおり、水稻以外の収入の可能性についても研修できました。参加者からは「収支は?」「加工の販路はどうやって開拓したのか?」など積極的な質問が交わされました。

今後も集落営農組織化を進めるとともに、栽培品目の選定や食品加工について支援していきます。

中土佐町大野見エコ米のブランド化を検討しました



「おおのみエコロジーファーマーズ」は、中山間の気候を活かしたコメ生産と販売に取り組んでいます。イベント参加によるPRや消費者との交流を続けた結果、米価が低迷する中、単価を維持した販売も順調で、26年産米のネット販売分は既に売り切れました。この取り組みをさらに広げるため、出荷量の増加、販路確保、地域素材との販促連携等、ブランド化に向けた検討を11月12日に行い、5名の執行委員が参加しました。品質確保のための色彩選別機の導入、将来の労働力確保に向けた近隣集落営農組織との連携、法人化等について助言を行いました。参加者も、ブランド化の取り組みと併せて、組織や地域の中長期的なビジョンの必要性を感じていました。